



大腸がん検診を受けましょう

— 早期発見でほぼ治るがんです —

東邦大学医療センター大森病院 消化器内科 教授 松田 尚久

企画：
日本医師会

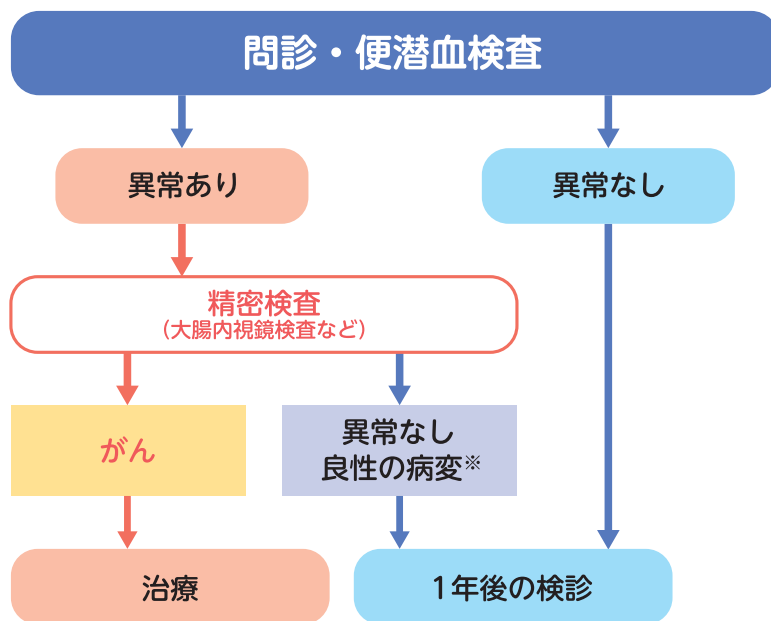
No. 601

大腸がんは 早く見つければ治るがんです

大腸がんは、日本人に多いがんの一つで、年齢とともに増えていきます。しかし、大腸がんは早い段階で発見し、適切な治療を受ければ、ほぼ治ることが分かっています。そのため、市区町村では40歳以上の方を対象に、大腸がん検診(図)を実施しています。

大腸がん検診では 何を調べるの？

大腸がん検診で行うのは、便に血が混じっていないかを調べる「便潜血検査」です。自宅で簡単に行うことができ、痛みや体への負担はありません。検査は年に1回受けることが勧められています。



※良性の病変と診断された場合には、主治医の指示に従ってください。

日本医師会ホームページ
「知っておきたいがん検診」
大腸がん検診の検査方法



図 大腸がん検診の流れ

(日本医師会ホームページ「知っておきたいがん検診」より、一部改変)

精密検査が必要と言われたら

便潜血検査で「精密検査が必要」と判定された場合には、大腸内視鏡検査(大腸カメラ)を受けます。この検査では、大腸の中を直接観察し、がんやポリープの有無を詳しく調べることができます。ポリープが見つかった場合、その場で切除できることも多く、がんになる前に治療することが可能です。

自覚症状がなくても検診を

大腸がんは、かなり進行しないと症状が出ないことも少なくありません。「自覚症状がないから大丈夫」と思わず、定期的に検診を受けることが大切です。大腸がん検診は、ご自身の健康だけでなく、ご家族の安心にもつながります。この機会に、ぜひ大腸がん検診を受けましょう。

日本医師会LINE公式アカウントでは、健康に関する情報やプレゼント企画を定期的に配信しています。

友だち
募集中

友だち登録をお願いします。

LINEの友だち登録にはLINEアカウントが必要です。LINEアカウントの作成方法は、LINE公式サイトをご覧ください。

